

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 5年 3 月 1 日

事業所名 社会福祉法人プラナの森 はるにれ園

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%	0%	グループ編成をし、少人数で過ごしている。	今後も、子どもたちが活動にじっくり取り組めるよう、グループ等の調整をしながら過ごす。
	2 職員の配置数は適切である	60%	40%	送迎などは同法人から大人数乗れる車両をお借りして、2名で行けるように調整して対応している。	送迎欠員対応として、次年度は法人間での対応を進めている。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	80%	20%	めろんやぶどうなど、場所を分かりやすく工夫している。 バリアフリーに関しては、スロープが準備してある為、必要に応じて玄関などの段差へ設置可能になっている。	壁・棚・扉等の保護していく。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	60%	40%	朝夕の清掃に加えて、都度使用した玩具や遊具の消毒を行っている。また、加湿器+プラスマクラスターで空気清浄も行っている。	玩具の整理整頓を常に心がける。収納が少ないため、使用頻度での分別・整理をしている。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参加している	80%	20%	職員会議を密にする事で、日々の業務改善に取り組んでいる。	業務改善に関して都度検討はしていたが、PDCAサイクルへの意識は低かった。今後は意識していく。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	80%	20%	保護者様からの評価を頂く事で、第三者からの視点で意見を頂戴し、自分たちでは気付く事のできなかった点への発見となり、改善へとつなげる事ができた。	まだ活かせていない部分も多いので、貴重なご意見を大切に改善へと繋げていく。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	80%	20%	集計し、HPで公表している。	回収率を上げるために、積極的なお声がけをする。
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	60%	40%	評議委員会や法人監査、監事監査の後などに、改善できることは都度改善してきた。	更なる業務改善にむけ、第三者の外部評価をしていく。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	80%	20%	確保し、職員全員がバランスよく研修を受ける機会を設けている。オンラインの研修が多かった。	コロナで中止になる研修も多かった。今後も積極的に受講し、スキルアップに繋げ職員間で水平展開していく。
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	100%	0%	利用開始にあたり、実際にお子様の様子を見て発達段階などを少しでも把握したうえで個別支援計画を作成し、療育へと繋げてきた。	日程調整などからアセスメントをせずに療育の初回利用となる場合もある為、相談員さんや通っている幼稚園さんとの連携して、なるべく多くの情報の中でお子さんの目指すところを明確にして個別支援計画を作成し、療育へ取り入れていく。
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	80%	20%	病院からなどの発達検査・知能検査は参考になると思う。アセスメントの書式を作成し、誰がアセスメントをしてもポイントにずれがないよう工夫した。	利用に関するアセスメントにおいて、お子さんの状況を分析、把握し、お子様の可能性を広げられるようなプラスの部分を見つけて、療育に繋げていく。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	80%	20%	家族支援なども取り入れて、その子に合った支援を設定しているのではないかと感じる。	地域支援としての目標設定があまりできていなかった為、今後必要なお子さんに関しては意識して設定していく。
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	100%	0%	行っている。	今後も引き続き行っていく。
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	主となる指導員が土台を立案し、施設長→職員で確認・検討し活動を決定している。	スタッフ間で支援会議を密にし、都度調整しながら療育を進めていく。
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	発達段階を見極めながらグループ分けをし、固定化しないよう様々なメンバーで活動を進めている。	固定化しないよう工夫はしているが、変化に弱いお子さんも多いのであえて同じプログラムにして安心して過ごせる環境も大切にしていく。
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	100%	0%	発達段階を見極めてグループ分けをし、小集団活動を取り入れている。	計画にも個別・集団の必要性を明記していく。
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	80%	20%	毎回療育前に打ち合わせを行い、療育がスムーズに進むよう役割分担をしている。	急な欠員があった場合はスケジュールの調整が必要になる為、療育開始前に打ち合わせをする。
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%	0%	AMもPMも30分、ミーティングの時間を設け、振り返り・情報共有をし、支援に一貫性をもたせている。毎回記録を残し、全員が把握できるようにしている。	今後も引き続き行っていく。
19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	療育の内容・ノートの内容・保護者さんとお話した事など、大切な事は全て記録に残すようにしている。	話せる機会が少ない保護者さんもいるので、定期的にお声掛けして連絡ノートだけでなく実際にお会いしてお話する時間を大切にしていく。	

20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	80%	20%	半年ごとにモニタリングを実施し、成長に合わせて計画の内容もステップアップしたり、少し前に戻ってみたりとお子さんの状態に合わせて変更している。	今後も引き続き保護者さんとお話をしながら決めていく。
----	---------------------------------------	-----	-----	--	----------------------------

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%	担当者会議へは療育でお子さんの様子をしっかりと把握している職員が参加するようにしている。資料も作成し、全員で目を通して完成させている。	会議に出席できる職員が偏りがちなので、今後会議に参加できる職員の育成の強化をする。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	80%	20%	相談員さんと保健師さんとも連携をとりながら情報共有をして支援を進める事ができている。	相談員さん・保健師さんなど関係機関との連携を密にしていけるよう今後も働きかけていく。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	60%	40%	協力医療機関の設定をしている	受け入れる際、連携を密にする。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	60%	40%	協力医療機関の設定をしている	受け入れる際、連携を密にする。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	80%	20%	担当者会議で引き継ぎをしたり、文書を作成して目を通してもらったりしてお子さんの情報共有してきた。	要点をまとめた書類を作成し、引継ぎ会議や担当者会議に今後も積極的に参加していく。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	80%	20%	担当者会議で引き継ぎを行った。	要点をまとめた書類を作成し、引継ぎ会議や担当者会議に今後も積極的に参加していく。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	60%	40%	OTさんやSTさんとお子さんについて情報共有し、助言を頂き療育に活かしてきた。	なかなか繋がりがもてないので、今後ご助言頂きながら療育を進めていきたい。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	20%	80%	多くの利用児が併行通園しており、またこども園訪問や行事などへの参加で交流の機会がある。	併用していないお子さんには、法人内での交流の機会を設けていく。また、必要性も保護者様にもお伝えしていく。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	100%	0%	参加している。	職員全員が参加できるよう調整を行った。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	80%	20%	毎回の療育で連絡ノートに記入したり、お迎え時に直接お伝えしたりしている。	送迎支援が増え、保護者と直接伝え合う時間が少ない保護者さんへは、こちらからの働きかけをしていく。
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)の支援を行っている	80%	20%	今年度は感染症拡大もあり、難しい状況だった。	次年度は保護者会等でペアレントトレーニングを支援していき、支援体制を充実していく。	
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	80%	20%	契約時に行っている。	1度にたくさんの情報をお伝えする事もあり、全てを把握して頂くことは難しいので、要望や疑問点があった場合は再度詳しく分かりやすく説明していく。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	80%	20%	保護者さんからの聞き取りを基に支援計画を作成し、話したことで完成した計画の内容に相違がないかをきちんと確認して頂いたうえでサインを頂戴している。	新しく利用となる方には特に、具体的にどのようなことを行っていくかなどを詳しく伝えていく。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	80%	20%	定期的にごちからからお声掛けし、必要に応じて事業所内相談の時間を設けている。	登・降園時にお話を伺う時間を設けたり、悩みや困りごとを誰にも話せず内に秘めやすい保護者さんもあるので、支援者側が小さなサインにも気付いてフォローできるようにスキルアップしていく。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	60%	40%	親子行事の時間を通して保護者同士の交流の機会にもなった。保護者会も開催し、保護者さん同士のつながりも支援した。	回数や時間は不十分と感じる為、今後感染症対策もしっかり行いながら保護者さん同士の交流の機会を充実させたい。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	80%	20%	相談や要望に対して、できる限りプラスの方向で検討・対応するよう心がけた。	今後も要望の内容を聞き、適切に対応していく。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	毎週のブログ更新、2か月に1回のおたより発行、玄関写真の掲示を行った。行事や講演会などのお知らせは連絡メールNEOを活用して周知した。	今後も講演会や勉強会、行事の連絡などはこまめに分かりやすく全員にお伝えしていく。玄関写真に関しても、更新されたことをお知らせして園に足を運んで頂けるよう働きかけていく。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	100%	0%	一覧表にして指導員がいつでも確認できるようにしている。大切な情報は鍵のかかるキャビネットで保管・管理している。	実績記録や連絡ノートの行き違いなどにも十分気を付けていく。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	80%	20%	口頭だけでなく、文字化して伝えたりメールでのお知らせも1度だけでなく、日程が近くなったら再度送信したりして対応した。	今後も引き続き行っていく。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	40%	60%	以前は夏祭り招待していたが、感染症拡大もあり、招待できない現状だった。	次年度、行事計画を作成し事前に地域住民に周知・参加を促していく。

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	80%	20%	コロナに関しては県中保健福祉事務所の指示を仰いだり、利用再開については治癒証明書の提出をお願いした。	伝達が不十分だった為、次年度に機会を設け、お伝えしていく。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	80%	20%	計画書を作成し、実際にお子さんと指導員の動きを確認しながら、定期的に避難訓練・安全指導を実施している。	避難訓練で救出まではやっていないなかったため、今後訓練計画の中で取り入れていく。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	80%	20%	アセスメントフェイスシートに服薬などについても記入して頂いている。	てんかん時の対応なども見えるところに掲示しており、緊急時に気が動転しても対応できるよう対応した。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	80%	20%	アセスメントフェイスシートに記入と、検査結果を提出して頂いている。キッチンに見えるところに掲示している。	今後も必要に応じて、専門家よりの意見も取り入れ対応していく。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%	療育中に少しでも気付いたことがあればヒヤリハット作成へと繋げている。	まだ気付きが少ないので、今後も様々な部分に目を向けて事故や怪我に繋がらないようにする。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	80%	20%	逆地防止研修に参加し、園でも全体へ報告会をして周知した。	今後も全職員を対象として研修を受けていく。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	60%	40%	事前に説明を行っている。	保護者様に、契約時等において伝達した後、個別支援計画に記載する。また、記載後に再度、保護者様へ周知徹底していく事で進めていく。